

北海道浦臼町晩生内（おそきない）の一本桜・大山桜の育樹

2023年5月10日に、北海道浦臼町晩生内（おそきない）の石狩川の河岸段丘上の農道の横にある大山桜一本の育樹を当社樹木医の木戸口和裕が行いました。樺戸山系を背景とした一本桜で、樹齢は50年生程度と思われる比較的若い樹木ですが、光条件が良いため、枝が四方に伸びて美しい樹形を呈しており、地域の観光資源やランドマークになりうるものです。



晩生内の一本桜・大山桜

2022.05.07



晩生内の一本桜・大山桜

2022.05.07

当該桜の育樹を木戸口に要請した方は、浦臼町内で食品加工や販売などを行うニンジン家族(株)代表取締役の伊藤勝典氏です。伊藤氏は、晩生内集落の1軒の農家によって小規模な面積で栽培されていた、ホワイト種に比べて香りや辛味が強く栄養価も高いピンク種のニンニクを見出し、その希少な北海道在来のニンニクの栽培品種を絶やさないと決意し、自ら栽培して、集落での栽培普及を進めてきた方です。

木戸口は、伊藤氏から、2020年に当該桜の存在とともに、当該桜の紅色にあやかり、このピンク種のニンニクに「さくら」と名付けたことを教えていただいていたいました。

育樹の内容は、病害虫の発生防止や修景のため、手鋸や高枝用鋸を使用して、スエヒロタケと見られる木材腐朽菌等による枯損幹、枯損枝の切除を行いました。根元周辺に繁茂しているクマイザサ、オオハンゴンソウ、アメリカセンダングサなどの下刈り（1回目）は、後日、伊藤勝典氏が行っています。



スエヒロタケによると見られる枯損幹等の切除 2023.5.10



枯損幹、枝の切除

2023.05.10



下刈り（1回刈り）直後の一本桜・大山桜 2023.05.20

育樹作業中に気になったことは、当該桜の背景となり、また、根の範囲に及んでいた堆肥造成地です。修景上の理由からだけでなく、当該桜の根の発達や過剰な窒素等の供給のおそれから、堆肥造成地を根域から離すことが望ましいと伊藤氏に後日お話したところ、伊藤氏は堆肥造成地としての利用そのものを止めています。

2023年11月8日に当該桜を見に行ったところ、クマイザサなどは下刈りが1回刈りであったことや堆肥効果もあって、衰退は見られませんでした。2024年は少なくとも2回以上の下刈りをして、施肥はせずにエアレーションをする必要があると思っています。